

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	アップルスポーツカレッジ
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
文化教養課程	プロトレーナー科		183.5	9単位	
	アスレティックトレーナー科		138.5	6単位	
	スポーツトレーナー科		138.5	6単位	
	スポーツビジネス科		142	6単位	
	こどもインストラクター科		57.5	6単位	
	陸上競技専攻科		121.5	6単位	
	バスケットボール専攻科		123.5	9単位	
	バスケットボール選手育成科		76	6単位	
	スポーツ研究科		74	3単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ https://www.applesports.jp/disclosure/index.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	アップルスポーツカレッジ
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ https://www.applesports.jp/disclosure/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	団体職員	2019年6月1日～ 2023年5月31日	政策的観点
非常勤	会社役員	2019年6月1日～ 2023年5月31日	教育統括的観点
非常勤	大学教授	2019年6月1日～ 2023年5月31日	教育統括的観点
非常勤	団体職員	2019年6月1日～ 2023年5月31日	政策的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	アップルスポーツカレッジ
設置者名	学校法人国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><u>授業計画書(シラバス)の作成と公表について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書(シラバス)は、学生の学習を支援するためのツールであるとともに、学習への動機づけの要素を持つ。そのため、学生が該当科目を受講するにあたり、何をしなければならないかを理解できるように学生視点で作成する。 ・授業計画書(シラバス)の公表は、本校志願者などが入学前に教育内容の詳細を把握することの手助けとなる。さらに授業担当教員が他の授業科目のシラバス内容を参考に、自らの授業内容を改善することにもつながる。 	
<p><u>授業計画書(シラバス)作成と公表の流れ</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今年度シラバスの確認と評価(「教育課程編成委員会」意見反映も検討) ② 教科担当者の決定・シラバス作成依頼(1~2月) ③ 新年度シラバス原稿提出(3月上旬) ④ 提出されたシラバスの完成 ⑤ 新年度のシラバスの完成(3月末) ⑥ 新年度授業開始前オリエンテーションにて学生へ配布(4月上旬) ⑦ ホームページ上での公表(4月) 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>プロトレーナー科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html アスレティックトレーナー科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html スポーツトレーナー科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html スポーツビジネス科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html こどもインストラクター科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html 陸上競技専攻科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html バスケットボール専攻科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html バスケットボール選手育成科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html スポーツ研究科シラバス https://www.applesports.jp/disclosure/index.html</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。

・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。

①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること

②授業料等納付済みであること

・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の合否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画書（シラバス）に明記される。

・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。

・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。

80点以上	A
60点以上 80点未満	B
40点以上 60点未満	C
25点以上 40点未満	D
24点以下	E

・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。

・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は60点以上を合格とし、評価は「60点（B評価）」とする。ただし、70点以上得点した場合、「70点（B評価）」となる場合がある。

・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が60点以上（B評価以上）の科目の単位を認定する。24点以下（E評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

科目の成績評価 (A、B、C、D、E) に対してそれぞれの評価区分に応じた GP (Grade Point) を付加し、以下の算出方法にて成績を平均化した GPA (Grade Point Average) による客観的な成績分布状況を把握する。

【GPA 対象科目】

以下の「適応除外科目」を除く全ての授業科目を GPA 対象とする
「適応除外科目」

- ①コース選択によりすべての学生が同一内容で履修を伴わない選択科目
- ②外部実習やインターンシップなど成績評価が実習先ごとに異なる科目

【成績評価の表示記号と GP (Grade Point) の付加】

GPA は表示記号に応じた以下の点数方式で行い、それぞれの評価区分に応じた GP を付加する。

評価区分	評定表示	GP
80 点以上	A	4
60 点以上 80 点未満	B	3
40 点以上 60 点未満	C	2
25 点以上 40 点未満	D	1
24 点以下	E	0

【GPA の算出方法】

GPA 対象授業科目のうち、履修した科目についてそれぞれの単位数に GP (4, 3, 2, 1, 0) のいずれかをかけ、その合計ポイントを単位総和で割ったものとする。

<算出方法>

科目名	単位数	評定	GP	合計 GP の算出
〇〇〇学	3	B	3	3×3=9
△△△実習	2	A	4	2×4=8
□□□演習	1	C	2	1×2=2
***論	2	E	0	2×0=0

上記の場合、(a) 単位数合計 8、(b) 合計 GP19 となるため、

GPA = (b) ÷ (a) = 19 ÷ 8 = 2.38 (小数点第 3 位以下を四捨五入)

※1) 不合格評定「E」の科目は GPA 算出上の単位数合計に含める。

※2) GPA 計算は小数点第 3 位以下を四捨五入するものとする。

※3) 不合格科目を再履修し、合格評価を得た場合または再び不合格の評価であった場合の、それぞれ再履修前の不合格評価については、通算の GPA には算入しない。

ただし、年度ごとに算出する GPA にはそれぞれ算入する。

【GPA による成績分布の把握と利用】

学生個人の GPA は学期末に上記の方法により算出し、成績分布の状況を把握する。成績分布結果は、学生の学修指導及び自立的な学修意欲向上に活かすことはもちろん、全学的な視点でも統計学的に分析し、教員個々の評価基準の修正、評価の相対化をなすために活用する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページ
<https://www.applesports.jp/disclosure/index.html>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>精神的豊かさを取り戻すためことが求められる我が国の現状を踏まえ、国境や文化・年齢を越えてスポーツを楽しむことが推奨されている。こうした国際化・多様化していく生涯スポーツ及び健康育成におけるスペシャリストの果たす役割はますます大きくなっているため、本校は今後のスポーツ界の発展のために、国際化する社会をグローバルに見つめ時代の変化に柔軟に対応できる能力を持つスペシャリストの育成を目指す。</p> <p>スポーツ界が求める優れた能力・知識・技術を身に付けた者（各学科が定める専門科目・必修科目及び必修資格を取得した者）、また地域社会において社会常識・マナーを身に付けた者（各学科が定める一般教養科目・必修科目及び必修資格を取得した者）さらに卒業に必要な単位数「54」単位を取得して授業料納付義務を守り、2月末の卒業判定会議にて了承され卒業要件を満たした者に卒業証書および専門士を授与する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページ http://www.applesports.jp/disclosure/index.html</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	アップルスポーツカレッジ
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.applesports.jp/disclosure/index.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.applesports.jp/disclosure/index.html
財産目録	http://www.applesports.jp/disclosure/index.html
事業報告書	http://www.applesports.jp/disclosure/index.html
監事による監査報告（書）	http://www.applesports.jp/disclosure/index.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	プロトレーナー科	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	212.5 単位時間/単位	88.5 単位 時間 /単位	90 単位時 間/単位	8 単位 時間/ 単位	0 時間	26 単位時 間/単位
	212.5 単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
75 人		36 人	0 人	5 人	6 人	11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>スポーツ選手から一般の人までを対象に合わせたトレーニングやコンディショニング指導などの体調管理やコンディショニングに関する専門知識や技術を習得し、将来社会貢献のできるトレーナーを育成することを目標とし、その基盤を築く。また、トレーナーとして現場から求められる人間性豊かで行動力、指導力のある人材を育成する。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書（シラバス）は概ね次の流れで作成される。</p> <p>①今年度シラバスの確認と評価（「教育課程編成委員会」意見反映も検討）</p> <p>②教科担当者の決定・シラバス作成依頼（1～2月）</p> <p>③新年度シラバス原稿提出（3月上旬）</p> <p>④提出されたシラバスの完成</p> <p>⑤新年度シラバス完成（3月末）</p> <p>⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布（4月上旬）</p> <p>⑧ ホームページ上での公表（4月）</p> <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上4月～9月下旬を前期、10月上旬～2月中旬を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <p>①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること</p> <p>②授業料等納付済みであること</p> <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画（シラバス）に明記される。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。 ・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。 <table border="0"> <tr><td>80点以上</td><td>A</td></tr> <tr><td>60点以上 80点未満</td><td>B</td></tr> <tr><td>40点以上 60点未満</td><td>C</td></tr> <tr><td>25点以上 40点未満</td><td>D</td></tr> <tr><td>24点以下</td><td>E</td></tr> </table> ・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。 ・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は60点以上を合格とし、評価は「60点（B評価）」とする。ただし、70点以上得点した場合、「70点（B評価）」となる場合がある。 ・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が60点以上（B評価以上）の科目の単位を認定する。24点以下（E評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。 	80点以上	A	60点以上 80点未満	B	40点以上 60点未満	C	25点以上 40点未満	D	24点以下	E
80点以上	A									
60点以上 80点未満	B									
40点以上 60点未満	C									
25点以上 40点未満	D									
24点以下	E									

卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。 ・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。 ・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	13人 (92.9%)	1人 (7.1%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>スポーツクラブ、フィットネスクラブ、スポーツショップ、介護施設など</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>学内に就職・進路相談室を設け、クラス担任と就職部が連携の下、就職研修（年3回）、就職実務学（1年半）、適宜就職面談を実施している。</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、NSCA パーソナルトレーナー、健康運動実践指導者
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年間 5 回の面談実施、hyper-QU 検査の実施 (結果の分析から面談)、学科会議の実施、職員会議での共有→教職員全員で把握		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	アスレティックトレーナー科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	159.5時間 単位時間/単位	73.5単 位時間 /単位	60単位 時間/ 単位	4単位 時間/ 単位	22単位 時間/ 単位	
			159.5単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		22人	0人	5人	6人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>スポーツ選手から一般の人までを対象に合わせたトレーニングやコンディショニング指導などの体調管理やコンディショニングに関する専門知識や技術を習得し、将来社会貢献のできるトレーナーを育成することを目標とし、その基盤を築く。また、トレーナーとして現場から求められる人間性豊かで行動力、指導力のある人材を育成する。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書（シラバス）は概ね次の流れで作成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①今年度シラバスの確認と評価（「教育課程編成委員会」意見反映も検討） ②教科担当者の決定・シラバス作成依頼（1～2月） ③新年度シラバス原稿提出（3月上旬） ④提出されたシラバスの完成 ⑤新年度シラバス完成（3月末） ⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布（4月上旬） ⑦ホームページ上での公表（4月） <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上4月～9月中旬を前期、9月中旬～1月末を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> ①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること ②授業料等納付済みであること <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画書（シラバス）に明記される。</p> <p>・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。 <table> <tr> <td>80 点以上</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>25 点以上 40 点未満</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>24 点以下</td> <td>E</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。 ・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は 60 点以上を合格とし、評価は「60 点（B 評価）」とする。ただし、70 点以上得点した場合、「70 点（B 評価）」となる場合がある。 ・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が 60 点以上（B 評価以上）の科目の単位を認定する。24 点以下（E 評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。 	80 点以上	A	60 点以上 80 点未満	B	40 点以上 60 点未満	C	25 点以上 40 点未満	D	24 点以下	E
80 点以上	A									
60 点以上 80 点未満	B									
40 点以上 60 点未満	C									
25 点以上 40 点未満	D									
24 点以下	E									
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級・卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2 月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること</p>										
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。 ・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。 ・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。 										

アスレティックトレーナー科 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26人 (100%)	0人 (0%)	26人 (100%)	0人 (%)
（主な就職、業界等）（主な就職、業界等） スポーツクラブ、フィットネスクラブ、介護施設、リラクゼーション施設			
（就職指導内容） 学内に就職・進路相談室を設け、クラス担任と就職部が連携の下、就職研修（年3回）、就職実務学（1年半）、適宜就職面談を実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、NSCA パーソナルトレーナー、健康運動実践指導者			
（備考）（任意記載事項）			

アスレティックトレーナー科 中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 年間5回の面談実施、hyper-QU 検査の実施（結果の分析から面談）、学科会議の実施、職員会議での共有→教職員全員で把握		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	スポーツトレーナー科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	159.5時間 単位時間/単位	73.5単 位時間 /単位	60単 位 時間/ 単位	4単 位 時間/ 単位	22単 位 時間/ 単位	
			159.5 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	28人	0人	5人	6人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>スポーツ選手から一般の人までを対象に合わせたトレーニングやコンディショニング指導などの体調管理やコンディショニングに関する専門知識や技術を習得し、将来社会貢献のできるトレーナーを育成することを目標とし、その基盤を築く。また、トレーナーとして現場から求められる人間性豊かで行動力、指導力のある人材を育成する。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書（シラバス）は概ね次の流れで作成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①今年度シラバスの確認と評価（「教育課程編成委員会」意見反映も検討） ②教科担当者の決定・シラバス作成依頼（1～2月） ③新年度シラバス原稿提出（3月上旬） ④提出されたシラバスの完成 ⑤新年度シラバス完成（3月末） ⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布（4月上旬） ⑦ホームページ上での公表（4月） <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上4月～9月中旬を前期、9月中旬～1月末を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> ①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること ②授業料等納付済みであること <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画書（シラバス）に明記される。</p> <p>・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。 <table> <tr> <td>80 点以上</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>25 点以上 40 点未満</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>24 点以下</td> <td>E</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。 ・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は 60 点以上を合格とし、評価は「60 点（B 評価）」とする。ただし、70 点以上得点した場合、「70 点（B 評価）」となる場合がある。 ・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が 60 点以上（B 評価以上）の科目の単位を認定する。24 点以下（E 評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。 	80 点以上	A	60 点以上 80 点未満	B	40 点以上 60 点未満	C	25 点以上 40 点未満	D	24 点以下	E
80 点以上	A									
60 点以上 80 点未満	B									
40 点以上 60 点未満	C									
25 点以上 40 点未満	D									
24 点以下	E									
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>進級・卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2 月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること</p>										
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。 ・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。 ・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。 										

スポーツトレーナー科 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

スポーツトレーナー科 中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

* スポーツトレーナー科は 2020 年度名称変更

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	スポーツビジネス科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	236時間 単位時間/単位	148 時間	28単位 時間/ 単位	16単位 時間/ 単位	0時間	44単位 時間/ 単位
			236単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		54人	0人	3人	3人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>スポーツ・健康・ビジネスを3つの柱として、競技スポーツの向上・生涯スポーツの普及・ビジネス能力の習得を目指す。スポーツを通じて学んだ知識・経験を幅広く活かせるスポーツアドバイザーを育てるため、プレゼンテーションやビジネス能力の向上だけでなく、指導力の向上も目標とする。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書（シラバス）は概ね次の流れで作成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①今年度シラバスの確認と評価（「教育課程編成委員会」意見反映も検討） ②教科担当者の決定・シラバス作成依頼（1～2月） ③新年度シラバス原稿提出（3月上旬） ④提出されたシラバスの完成 ⑤新年度シラバス完成（3月末） ⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布（4月上旬） ⑦ホームページ上での公表（4月） <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上4月～9月中旬を前期、9月中旬～1月末を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> ①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること ②授業料等納付済みであること <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画書（シラバス）に明記される。</p> <p>・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。 <table> <tr> <td>80 点以上</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>25 点以上 40 点未満</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>24 点以下</td> <td>E</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。 ・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は 60 点以上を合格とし、評価は「60 点（B 評価）」とする。ただし、70 点以上得点した場合、「70 点（B 評価）」となる場合がある。 ・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が 60 点以上（B 評価以上）の科目の単位を認定する。24 点以下（E 評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。 	80 点以上	A	60 点以上 80 点未満	B	40 点以上 60 点未満	C	25 点以上 40 点未満	D	24 点以下	E
80 点以上	A									
60 点以上 80 点未満	B									
40 点以上 60 点未満	C									
25 点以上 40 点未満	D									
24 点以下	E									
卒業・進級の認定基準										
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2 月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること</p>										
学修支援等										
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。 ・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。 ・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。 										

スポーツビジネス科 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	17人 (100%)	0人 (%)
（主な就職、業界等） スポーツショップ、各種販売店			
（就職指導内容） 学内に就職・進路相談室を設け、クラス担任と就職部が連携の下、就職研修（年3回）、就職実務学（1年半）、適宜就職面談を実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 販売士検定、スポーツイベント検定、ファッション販売能力検定			
（備考）（任意記載事項）			

スポーツビジネス科 中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
43人	1人	2.3%
（中途退学の主な理由） 統合失調症悪化の為		
（中退防止・中退者支援のための取組） 年間5回の面談実施、hyper-QU 検査の実施（結果の分析から面談）、学科会議の実施、職員会議での共有→教職員全員で把握		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	こどもインストラクター科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 132.5 時間 単位時間/単位	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年			51.5 単 位時間 /単位	29 単位 時間/ 単位	16 単位 時間/ 単位	時間	36 単位 時間/ 単位
			132.5 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		18 人	0 人	2 人	6 人	8 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>「健康」をテーマに健やかな発育、健やかな生活、健やかな老いを Wellness という概念のもとに、人々の健康サポートする心豊かな「健康アドバイザー」の育成を目指す。キッズから高齢者までの指導ができ、即戦力となる指導者の育成、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上、社会人としてのマナーを身に付ける。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書 (シラバス) は概ね次の流れで作成される。</p> <p>①今年度シラバスの確認と評価 (「教育課程編成委員会」意見反映も検討)</p> <p>②教科担当者の決定・シラバス作成依頼 (1~2 月)</p> <p>③新年度シラバス原稿提出 (3 月上旬)</p> <p>④提出されたシラバスの完成</p> <p>⑤新年度シラバス完成 (3 月末)</p> <p>⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布 (4 月上旬)</p> <p>⑦ホームページ上での公表 (4 月)</p> <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上 4 月~9 月中旬を前期、9 月中旬~1 月末を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <p>①該当試験科目の所定授業数の 3 分の 2 以上出席していること</p> <p>②授業料等納付済みであること</p> <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画書 (シラバス) に明記される。</p> <p>・一科目について 100 点満点 (上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点) とし、25 点に満たない場合は不合格とする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。 <p>80 点以上 A 60 点以上 80 点未満 B 40 点以上 60 点未満 C 25 点以上 40 点未満 D 24 点以下 E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。 ・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は 60 点以上を合格とし、評価は「60 点（B 評価）」とする。ただし、70 点以上得点した場合、「70 点（B 評価）」となる場合がある。 ・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が 60 点以上（B 評価以上）の科目の単位を認定する。24 点以下（E 評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2 月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。 ・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。 ・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。

こどもインストラクター科 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 ()	人 ()	人 ()	人 ()
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			

* こどもインストラクター科は 2019 年度開設のため、卒業者無し

こどもインストラクター科 中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年間5回の面談実施、hyper-QU 検査の実施（結果の分析から面談）、学科会議の実施、職員会議での共有→教職員全員で把握		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	陸上競技専攻科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	140.5時間 単位時間/単位	47.5 単 位時間 /単位	55 単位 時間/ 単位	時間	時間	38 単位 時間/ 単位
			140.5 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		9人	0人	1人	6人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>競技力向上を第一に考え、日本のトップレベルの選手から技術・理論を学び、日本選手権、全日本実業団といった全日本レベルの試合での優勝・入賞を目指す。また、競技を通じて得た知識や経験を地域スポーツなどの場で活かすべく、スポーツビジネス分野での知識も学び、スポーツとビジネスの両面から陸上競技全体の活性化を図られる指導者を育成する。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書（シラバス）は概ね次の流れで作成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①今年度シラバスの確認と評価（「教育課程編成委員会」意見反映も検討） ②教科担当者の決定・シラバス作成依頼（1～2月） ③新年度シラバス原稿提出（3月上旬） ④提出されたシラバスの完成 ⑤新年度シラバス完成（3月末） ⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布（4月上旬） ⑦ホームページ上での公表（4月） <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上4月～9月中旬を前期、9月中旬～1月末を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> ①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること ②授業料等納付済みであること <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画書（シラバス）に明記される。</p> <p>・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。</p>

・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。

80 点以上	A
60 点以上 80 点未満	B
40 点以上 60 点未満	C
25 点以上 40 点未満	D
24 点以下	E

・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。

・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は 60 点以上を合格とし、評価は「60 点（B 評価）」とする。ただし、70 点以上得点した場合、「70 点（B 評価）」となる場合がある。

・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が 60 点以上（B 評価以上）の科目の単位を認定する。24 点以下（E 評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。

卒業・進級の認定基準

（概要）

進級・卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2 月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること

学修支援等

（概要）

・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。

・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。

・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。

陸上競技専攻科 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	4人 (80%)	1人 (20%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) スポーツショップ			
(就職指導内容) 学内に就職・進路相談室を設け、クラス担任と就職部が連携の下、就職研修（年3回）、就職実務学（1年半）、適宜就職面談を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 健康運動実践指導者			
(備考) (任意記載事項)			

陸上競技専攻科 中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年間5回の面談実施、hyper-QU検査の実施（結果の分析から面談）、学科会議の実施、職員会議での共有→教職員全員で把握		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	バスケットボール専攻科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	172.5時間 単位時間/単位	71.5単 位時間 /単位	37単位 時間/ 単位	時間	時間	64単位 時間/ 単位
	172.5単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
45人		16人	0人	2人	6人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>バスケットボール競技で ALLJAPAN、全日本クラブ選手権、全国専門学校大会上位入賞を目指して、将来的にはプロチーム、実業団で活躍できるプレーヤーを目指す。また、競技を通じてコーチングの知識・経験を得て指導者を養成し、バスケットボール業界を活性化させる人材を育成する。</p> <p>競技力向上を第一に考え、日本のトップレベルの選手から技術・理論を学び、日本選手権、全日本実業団といった全日本レベルの試合での優勝・入賞を目指す。また、競技を通じて得た知識や経験を地域スポーツなどの場で活かすべく、スポーツビジネス分野での知識も学び、スポーツとビジネスの両面から陸上競技全体の活性化を図られる指導者を育成する。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書（シラバス）は概ね次の流れで作成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①今年度シラバスの確認と評価（「教育課程編成委員会」意見反映も検討） ②教科担当者の決定・シラバス作成依頼（1～2月） ③新年度シラバス原稿提出（3月上旬） ④提出されたシラバスの完成 ⑤新年度シラバス完成（3月末） ⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布（4月上旬） ⑦ホームページ上での公表（4月） <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上4月～9月中旬を前期、9月中旬～1月末を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> ①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること ②授業料等納付済みであること <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、</p>	

実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画書（シラバス）に明記される。

・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。

・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。

80点以上	A
60点以上 80点未満	B
40点以上 60点未満	C
25点以上 40点未満	D
24点以下	E

・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。

・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は60点以上を合格とし、評価は「60点（B評価）」とする。ただし、70点以上得点した場合、「70点（B評価）」となる場合がある。

・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が60点以上（B評価以上）の科目の単位を認定する。24点以下（E評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。

卒業・進級の認定基準

（概要）

進級・卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること

学修支援等

（概要）

・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。

・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。

・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。

バスケットボール専攻科卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	7人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 実業団チーム、プロチーム（フロント）			
（就職指導内容） 学内に就職・進路相談室を設け、クラス担任と就職部が連携の下、就職研修（年3回）、就職実務学（1年半）、適宜就職面談を実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） Word 検定、Excel 検定、PowerPoint 検定			
（備考）（任意記載事項）			

バスケットボール専攻科 中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	1人	6.7%
（中途退学の主な理由） 学習意欲の低下		
（中退防止・中退者支援のための取組） 年間5回の面談実施、hyper-QU 検査の実施（結果の分析から面談）、学科会議の実施、職員会議での共有→教職員全員で把握		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	バスケットボール選手育成科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	109時間 単位時間/単位	20単位 時間/ 単位	29単位 時間/ 単位	時間	時間	60単位 時間/ 単位
	109単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
25人		4人	0人	1人	1人	1人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>バスケットボール競技で ALLJAPAN、全日本クラブ選手権、全国専門学校大会上位入賞を目指して、将来的にはプロチーム、実業団で活躍できるプレーヤーを目指す。また、競技を通じてコーチングの知識・経験を得て指導者を養成し、バスケットボール業界を活性化させる人材を育成する。</p> <p>競技力向上を第一に考え、日本のトップレベルの選手から技術・理論を学び、日本選手権、全日本実業団といった全日本レベルの試合での優勝・入賞を目指す。また、競技を通じて得た知識や経験を地域スポーツなどの場で活かすべく、スポーツビジネス分野での知識も学び、スポーツとビジネスの両面から陸上競技全体の活性化を図られる指導者を育成する。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書（シラバス）は概ね次の流れで作成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①今年度シラバスの確認と評価（「教育課程編成委員会」意見反映も検討） ②教科担当者の決定・シラバス作成依頼（1～2月） ③新年度シラバス原稿提出（3月上旬） ④提出されたシラバスの完成 ⑤新年度シラバス完成（3月末） ⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布（4月上旬） ⑦ホームページ上での公表（4月） <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上4月～9月中旬を前期、9月中旬～1月末を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> ①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること ②授業料等納付済みであること <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うも</p>	

のについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画（シラバス）に明記される。

・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。

・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。

80点以上	A
60点以上 80点未満	B
40点以上 60点未満	C
25点以上 40点未満	D
24点以下	E

・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。

・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は60点以上を合格とし、評価は「60点（B評価）」とする。ただし、70点以上得点した場合、「70点（B評価）」となる場合がある。

・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が60点以上（B評価以上）の科目の単位を認定する。24点以下（E評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。

卒業・進級の認定基準

（概要）

進級・卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること

学修支援等

（概要）

・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。

・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。

・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。

バスケットボール選手育成卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2人 （100%）	0人 （%）	0人 （%）	2人 （100%）
（主な就職、業界等） 一般企業（住宅、接客）			
（就職指導内容） 学内に就職・進路相談室を設け、クラス担任と就職部が連携の下、就職研修（年3回）、就職実務学（1年半）、適宜就職面談を実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） Word 検定、Excel 検定			
（備考）（任意記載事項）			

バスケットボール選手育成科 中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	1人	25%
（中途退学の主な理由） 精神疾患の悪化の為		
（中退防止・中退者支援のための取組） 年間5回の面談実施、hyper-QU 検査の実施（結果の分析から面談）、学科会議の実施、職員会議での共有→教職員全員で把握		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養課程		文化・教養専門課程	スポーツ研究科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	54 単位時間/単位	49 単位時間 / 単位	19 単位時間/単位	8 単位時間/単位	0 時間	12 単位時間/単位
			88 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		5人	0人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>スポーツ選手から一般の人までを対象に合わせたトレーニングやコンディショニング指導などの体調管理やコンディショニングに関する専門知識や技術を習得し、将来社会貢献のできるトレーナーを育成することを目標とし、その基盤を築く。在学した2年または3年間からさらに専門的に学び、高い技術と知識を身に付け、スポーツ界をリードする人材を育成する。</p> <p>その他カリキュラムを受け、授業計画書（シラバス）は概ね次の流れで作成される。</p> <p>①今年度シラバスの確認と評価（「教育課程編成委員会」意見反映も検討） ②教科担当者の決定・シラバス作成依頼（1～2月） ③新年度シラバス原稿提出（3月上旬） ④提出されたシラバスの完成 ⑤新年度シラバス完成（3月末） ⑥新年度授業開始前オリエンテーションにて学生への配布（4月上旬） ⑦ホームページ上での公表（4月）</p> <p>年間の授業計画は上記で作成されるシラバスに沿って遂行する。年間スケジュール上4月～9月中旬を前期、9月中旬～1月末を後期に分け、それぞれ学期末に期末試験を実施し、科目評価・単位認定を行う。なお、前期・後期に及ぶ通年科目は後期末に科目評価を行う。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の評価は、履修した所定の授業科目において実施する科目試験結果及び実習評価に基づき評価する。 ・科目試験を実施できる者は、以下の条件を満たしていなければならない。 <p>①該当試験科目の所定授業数の3分の2以上出席していること ②授業料等納付済みであること</p> <p>・科目試験は各年次の履修科目ごとに行い、その方法は筆記試験、レポート課題提出、実技試験、授業態度評価などを併用することがある。科目履修の成果物検定を伴うものについては検定の可否結果及び得点状況も評価の対象となる。これら試験及び評価方法は各科目の授業計画書（シラバス）に明記される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一科目について100点満点（上記、科目試験方法の割合に応じた総合得点）とし、25点に満たない場合は不合格とする。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・得点に応じた成績評価の表示は次の通りとする。 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">80 点以上</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>60 点以上 80 点未満</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>40 点以上 60 点未満</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>25 点以上 40 点未満</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>24 点以下</td> <td>E</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・病気、その他やむを得ない事由（災害、病気、忌引等）により受験できなかったものは、校長の許可により追試験を実施する。 ・科目試験の結果、不合格となった者については、学習の機会を与え、再試験を実施する。再試験は 60 点以上を合格とし、評価は「60 点（B 評価）」とする。ただし、70 点以上得点した場合、「70 点（B 評価）」となる場合がある。 ・履修規定に基づき、科目試験結果（追試験の結果含む）が 60 点以上（B 評価以上）の科目の単位を認定する。24 点以下（E 評価）の場合は不合格となり、同科目の単位には再履修が必要となる。 	80 点以上	A	60 点以上 80 点未満	B	40 点以上 60 点未満	C	25 点以上 40 点未満	D	24 点以下	E
80 点以上	A									
60 点以上 80 点未満	B									
40 点以上 60 点未満	C									
25 点以上 40 点未満	D									
24 点以下	E									
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>卒業に必要な単位数「54」単位を取得していること。授業料納付義務を守っていること。2 月末の進級・卒業判定会議にて了承されていること</p>										
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制であり、年間複数回の個別面談、授業や学生生活に関するアンケートを実施し、学生の学修状況・学習意欲の把握に努めている。必要に応じて保護者との報告連絡相談も適宜行う。 ・基礎学力不足の学生には授業時間外での補習や課題を提示し、学力向上に努めている。 ・カウンセリング制度を設け、担任以外にも学校生活上の悩み等を受け入れる体制を構築している。 										

スポーツ研究科卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	0人 (22.2%)	6人 (77.8%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） スポーツクラブ、フィットネスクラブ、スポーツショップなど			
（就職指導内容） 学内に就職・進路相談室を設け、クラス担任と就職部が連携の下、就職指導を実施。適宜就職面談を実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、NSCA パーソナルトレーナー			
（備考）（任意記載事項）			

スポーツ研究科 中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 年間5回の面談実施、学科会議の実施、職員会議での共有→教職員全員で把握		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
プロテナー科	70,000 円	570,000 円	370,000 円	
アスレティックトレーナー科	50,000 円	750,000 円	370,000 円	
スポーツトレーナー科	70,000 円	770,000 円	370,000 円	
スポーツビジネス科	70,000 円	670,000 円	370,000 円	
こども インストラクター科	70,000 円	770,000 円	370,000 円	
陸上競技 専攻科	70,000 円	670,000 円	370,000 円	
バスケットボール 専攻科	70,000 円	570,000 円	370,000 円	
バスケットボール 選手育成科	70,000 円	770,000 円	370,000 円	
スポーツ 研究科	70,000 円	320,000 円	300,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.applesports.jp/disclosure/index.html		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 卒業生、保護者、地域住民等や業界企業の学校関係者から委員を招集し、学校の自己評価結果を基に協議し、その改善を学校運営に反映していくこととする専修学校におけるガイドラインを踏まえ、学校が行っている学生意識調査、保護者アンケート、その他の資料に基づく自己評価(次の10項目:教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令の遵守、社会貢献・地域貢献)に対して学校長が選任した以下3名で構成される委員会の評価を受ける。学校関係者評価委員会から評価を受けた結果を公表するとともに、その結果を踏まえた評価翌年以降の学校運営の改善に取り組む。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
新潟アルビレックスベースボールクラブ	2019年4月1日～2021年3月31日	実習先
新潟アルビレックスランニングクラブ	2019年4月1日～2021年3月31日	実習先
新潟プロバスケットボール	2019年4月1日～2021年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.applesports.jp/disclosure/index.html		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.applesports.jp/disclosure/index.html
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	アップルスポーツカレッジ
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。